

青嶺

Seirei

文責 田中泰司

伊万里市立青嶺中学校

平常心で臨め！ 一般選抜入試突破へ

今日で二月が終わり、来週はいよいよ卒業式を迎えます。

その前にはほとんどの生徒たちにとっての戦いの場である、一般選抜入試が待っています。

中学校を卒業し義務教育を終えるという事は、自分の生きていく道を初めて自分自身で選択するという事です。これからの人生ではそんな数々の選択があり、自分の心や周囲の人と相談しながら、自分の責任で決めていきます。

希望通りの道を進んでいくために絶え間ない努力を重ねていかないといいませんが、自分の人生を自分の手で切り拓いていけるように、粘り強くやり抜く姿勢を持ってほしいと願っています。やってきたことを信じ、自分らしく平常心で試験に臨みましょう。春はもうすぐそこに来ています。

何を信じる？④

夜が来て持っていた缶詰を食べ、川の水を飲み、どうするべきかを何度も何度も考えました。選択肢はそう多くありません。バイクを走らせて先に進み応急修理をするか、バイクを捨て、歩いて人のいる所に向かうかの二択です。

時間的な余裕はなく、少しでも助かる可能性の高い方を選ばなければなりません。出発前のように自分にとって甘く都合のいい判断では命を落としてしまいます。

自分の人生の中で死にもっとも近づいた日でした。なんでもこんなことになったのか？うその情報を教えた旅人の顔を思い浮かべては悔しくなり恨みました。でも、そうではないのです。厳しい情報もたくさんあり、そんななかで自分に都合の良い、耳当たりの良い情報を、自分で選んだ末に自分自身の見通しの甘さや判断を反省すべきだったのです。恨んでも悔んでも、今

更どうしようもありません。この状況を打破できるのは自分自身のみです。

まずやることはバイクを引っ張り上げることです。一晩休んで体力が回復したので転落現場へ戻ります。ハンドルをもつて斜面を少し引き上げ次にキャリアをもつて逆から引き上げる、を繰り返しました。乾燥重量が二百キロを越えるのは至難の業でした。

長い時間をかけ道路まで引き上げられるかどうかをチェック。ガソリンの流出は最小限で何とか足りそうです。ハンドルもとりあえずは固定されています。問題は大きく曲がりクラックが入ったシフトでした。そこで動けるバイクで行ける所まで行き、少しでも人のいる場所まで近づく。シフトが折れて低速でしか移動できなくても歩くよりは疲れないだろう。ガソリンが無くなり動かなくなつた場合はそこから歩きかえてひたすら進む。生き延びるにはバイクの力を借りるしかないと思断しました。川の水は決してきれいではなかったですが渴きをいやすには十分でした。

水があるという安心感が冷静な判断を助けてくれました。シフトを気遣いながらゆっくり走り時間をかけ川を三本越え、NEWルートとの交差

地点まで辿り着きました。そこからはややスピードを上げ町まで走りました。最後の大きな川ジャダーインリバーは渡し舟で渡ります。そこでやっと人と接触できて危機は脱しました。

夕方6時過ぎにトップの街、バマガに到着！そこから海辺の集落、セイシアのキャラバンパークに行き、テントを張って何とか助かりました。途中で限界を迎え、折れてしまったシフトペダルは翌日、村のペトロールスタンドで溶接してもらいました。ケアンズに戻って新しいパーツに交換しましたが、帰国する時、溶接の跡のある曲がったシフトペダルだけは思い出し持ち帰りました。もしあそこでバイクを離れ徒歩で移動することを選択したら、また逆のルートで戻っていたら、もしかしたら最悪の事態に陥っていたかもしれません。

人生の別れ道という大げさなものでもなく、さまざまな場面を問われます。多くの情報があり、多くの人が助言やアドバイスをしてくれます。その中で何かしらの基準を元に決断するのですが、その情報が正しくてもそうでなくても選んだのは自分です。その結果、どうなるのかの責任を負うのも自分自身なのです。どの情報を選ぶのかはその人の物の見方や考え、捉え方が如実に反映しています。

誰かに責任を押し付けようとする態度もそうです。私は自分自身を危機にさらして初めて物事はじっくりと考え、判断するべきだということ、良くないことが起こる確率をちゃんと計算しておくこと、そのために余裕をもつて計画し備えておくことを学びました。いまでもなかなか実行できず、焦ってギリギリの計画を立ててしまい失敗を繰り返しています。しかし許容の範囲は随分と広がり、予想外の出来事があったとしてもカバーできるようにしました。

「そうあってほしい」という甘い希望的観測だけをもって信じてしまうことは避けたいものです。もしかししたら自分にとって厳しくあまり耳にしたくない事をあえて言ってくれる人の方が本当に優しい思いやりがある人なのかもしれません。自分の心に向き合っていて、いろいろな意見や考えに広く耳を傾け、最終的にはしっかりと納得したうえで自分の責任で信じましょう。全ては自分の生き方なので

校長室より

伊万里湾から吹いてくる風が少しずつ暖かくなってきました。二月が逃げていって、「去る」三月がやってきます。生徒たちの成長を実感しつつ、共に過ごすありふれた毎日の大切さ、貴重さを感じていきます。